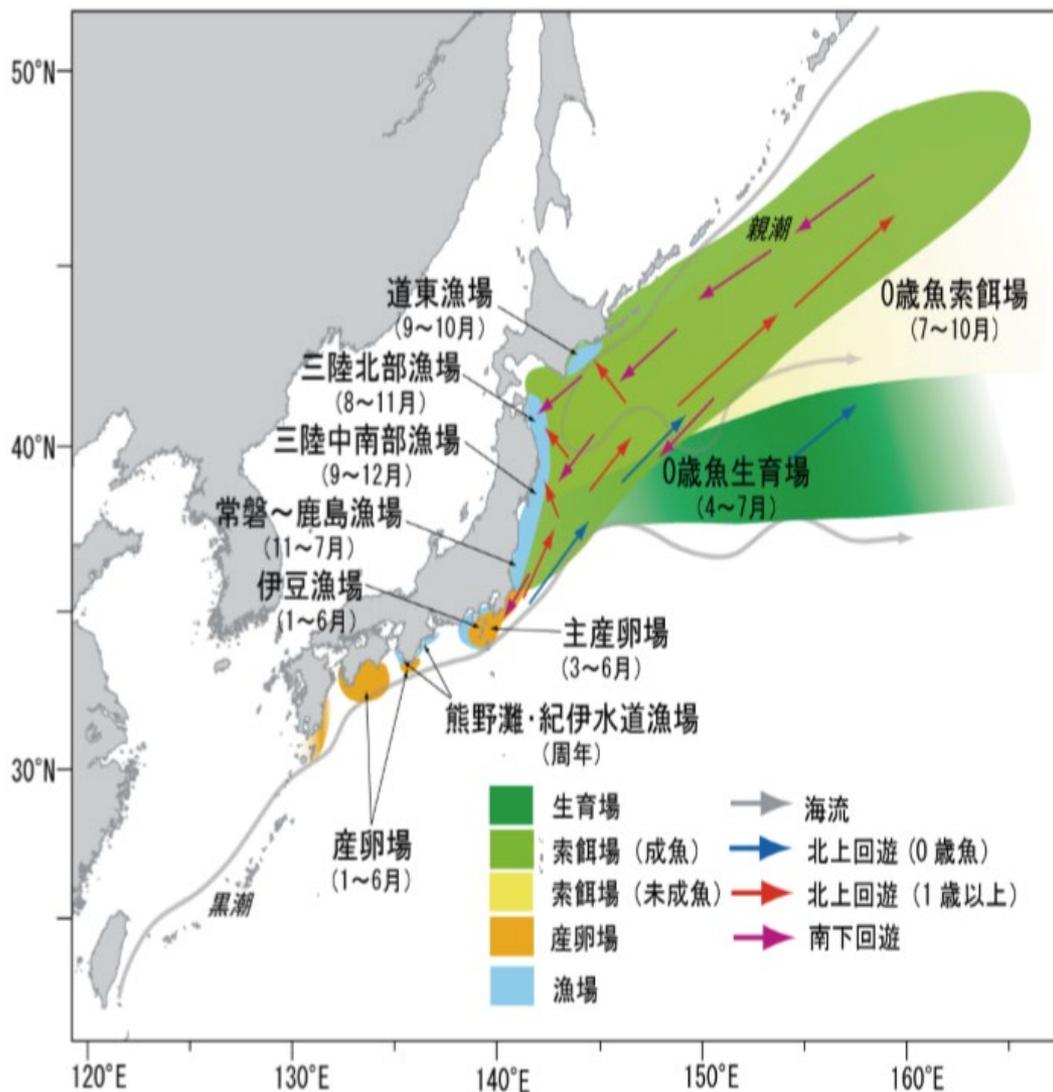




# マサバ太平洋系群 令和3年度資源評価結果

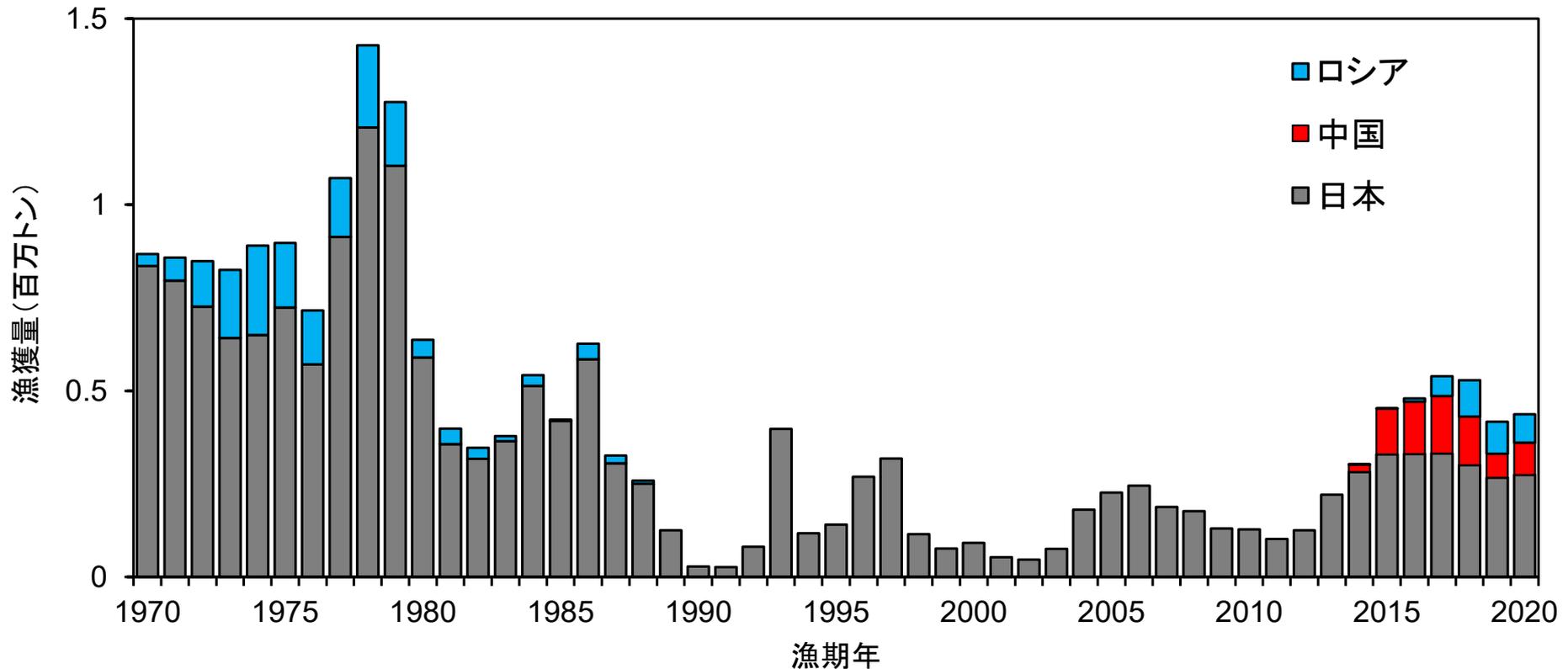
# マサバ太平洋系群 生物学的特性



## 生物学的特性

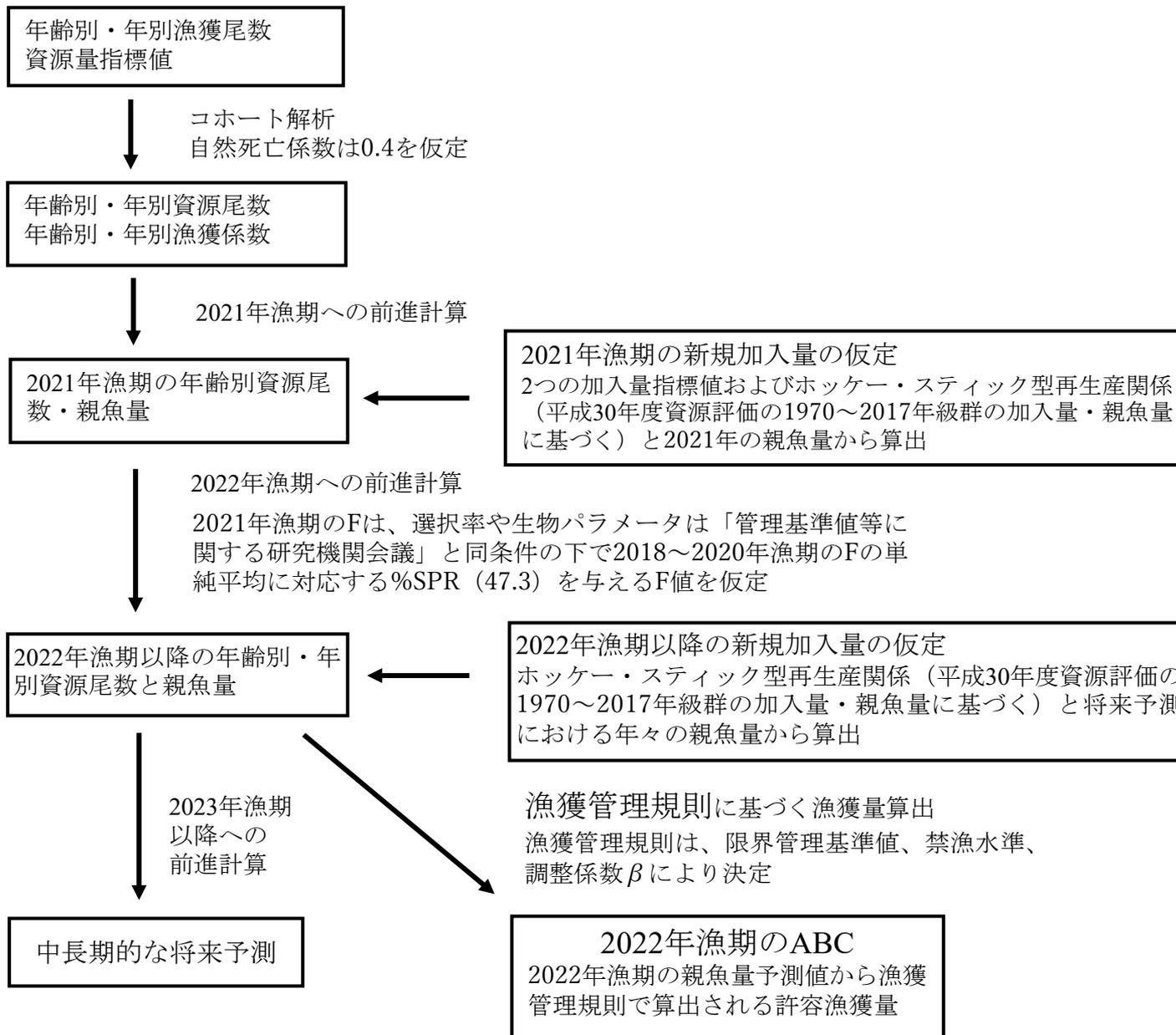
- 寿命：7～8歳（最高11歳）
- 成熟開始年齢：1970～1975年、2015～2017年は2歳（20%）、1976～1986年は2歳（30%）、2005～2014年は2歳（50%）など、年により異なる
- 産卵期・産卵場：1～6月、主に伊豆諸島周辺海域（3～6月）、他に足摺岬、室戸岬周辺や紀南などの太平洋南部沿岸域や東北海域
- 食性：稚魚は動物プランクトン、幼魚以降はカタクチイワシなどの魚類やオキアミ類などの甲殻類、サルパ類など
- 捕食者：サメ類などの大型魚類、ミンククジラ

# 漁獲量の動向

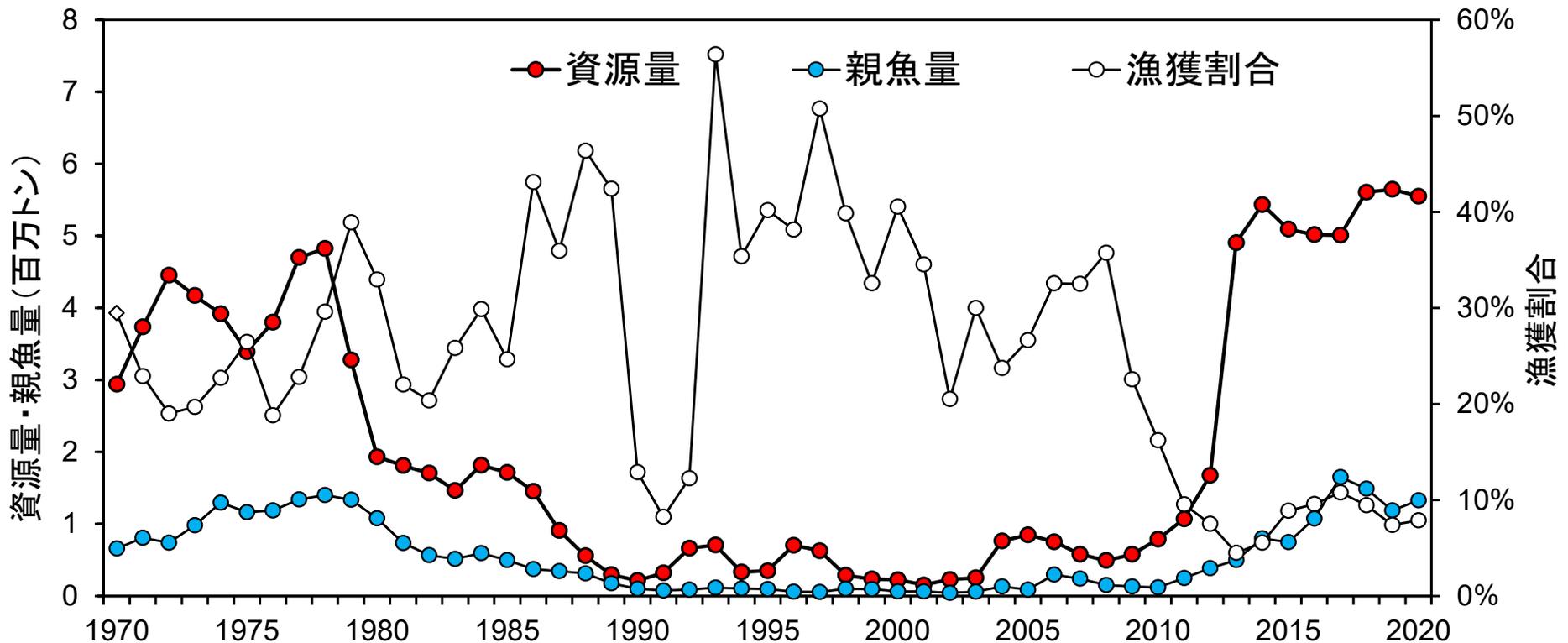


- 1990、1991年漁期に3万トン程度まで落ち込むが、2013年漁期以降増加
- 2020年漁期の我が国漁獲量:27万トン

# 資源評価の流れ



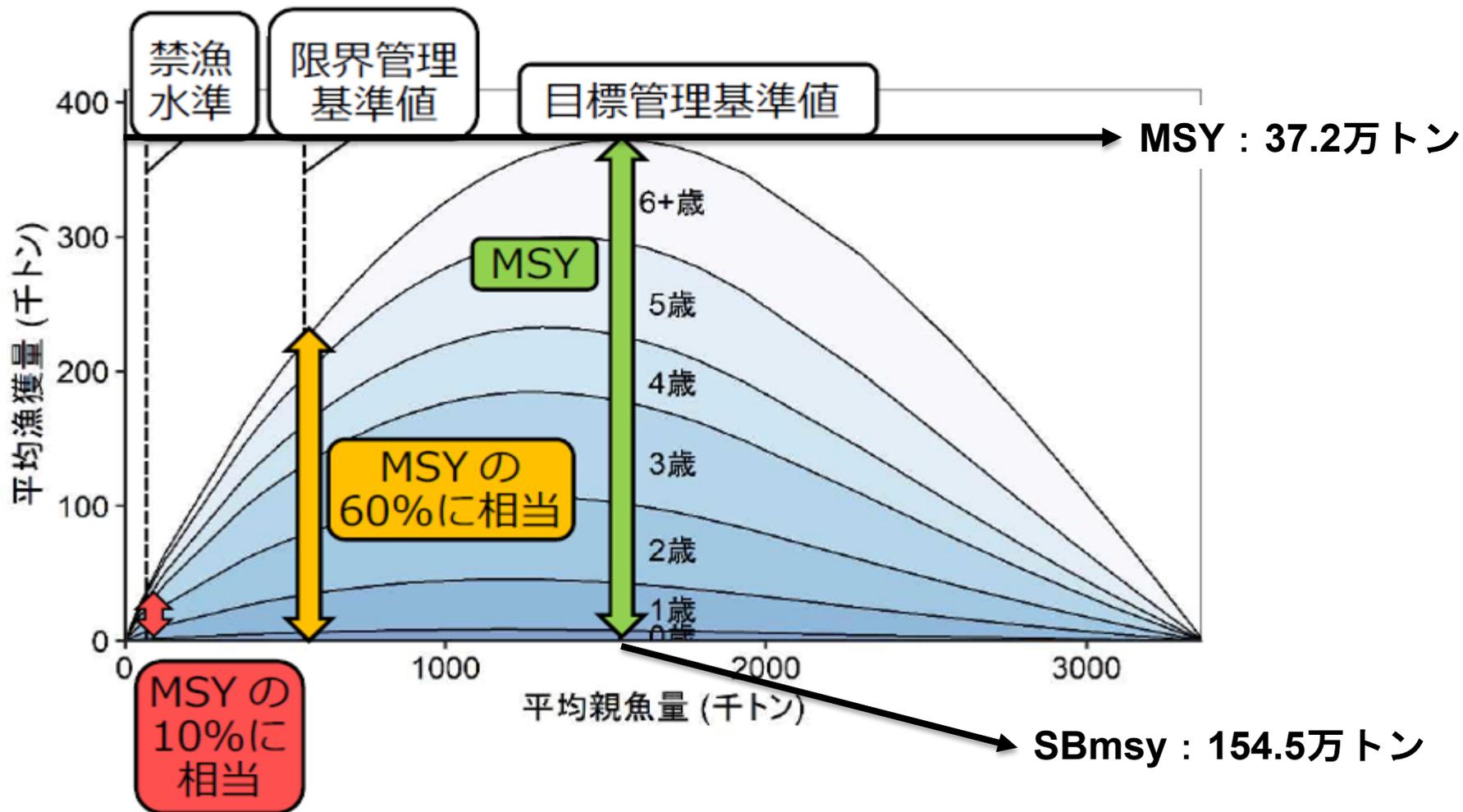
# 資源の動向



●資源量： 2013年漁期は491万トンとなり、その後もさらに増加  
2020年漁期は555万トン

●親魚量の動向は「増加」

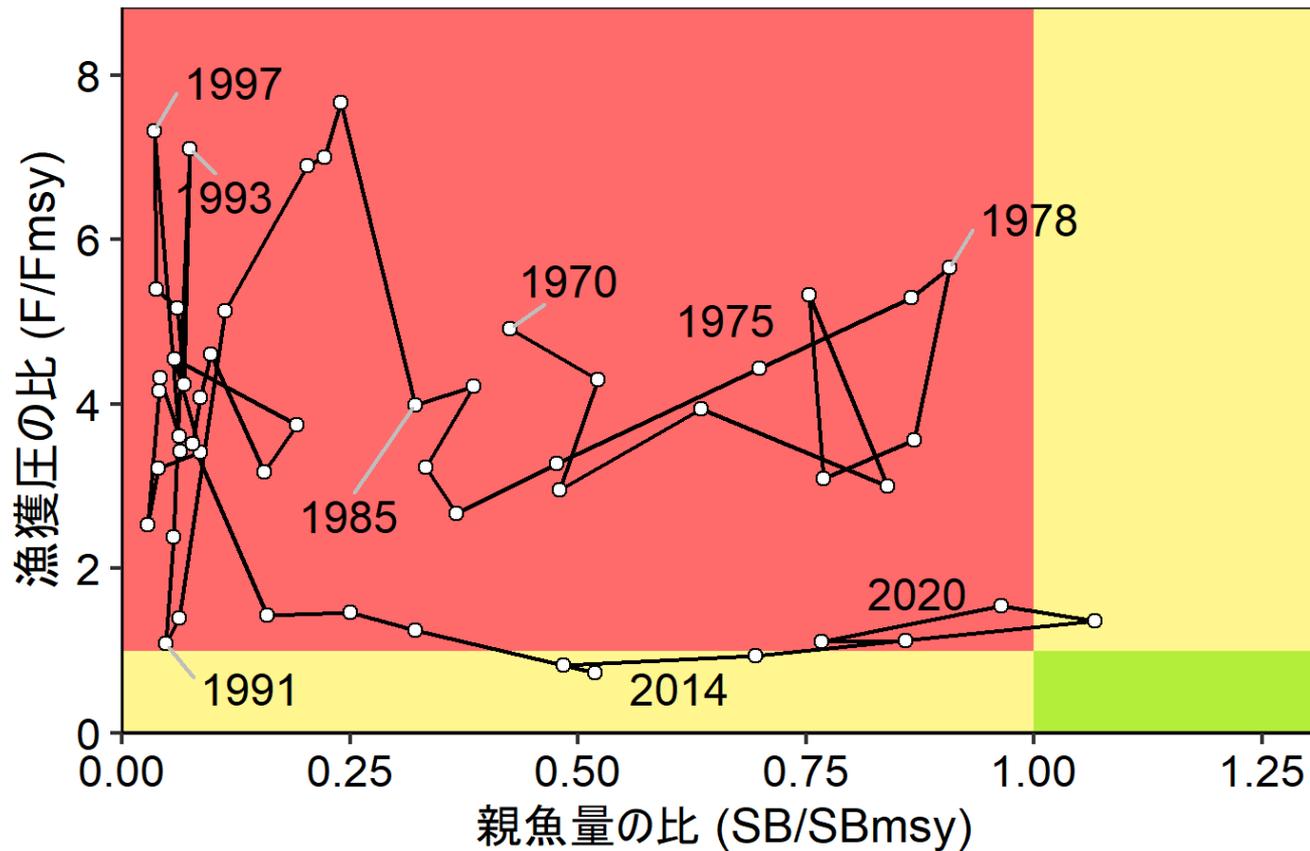
# マサバ太平洋系群のMSY



●最大持続生産量 (MSY) : 37.2万トン

●MSYを実現する親魚量 (SBmsy、目標管理基準値) : 154.5万トン

# マサバ太平洋系群の神戸プロット(チャート)



※神戸プロット: 資源水準と漁獲圧力について、最大持続生産量を達成する水準と比較した形で過去から現在までの推移を表示したもの

●2020年漁期の親魚量: MSYを実現する親魚量を下回っている。

●2020年漁期の漁獲圧: MSYを実現する漁獲圧を上回っている。

# 将来の親魚量及び漁獲量の推移

将来の平均親魚量(千トン)

2030年に親魚量が目標管理基準値(154.5万トン)を上回る確率

$\beta$	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
1.0	1,328	1,654	1,979	2,826	2,693	2,487	2,288	2,088	1,960	1,894	1,852	51%
0.9	1,328	1,654	1,979	2,874	2,780	2,592	2,402	2,200	2,066	1,995	1,951	56%
0.8	1,328	1,654	1,979	2,924	2,871	2,703	2,524	2,322	2,183	2,107	2,060	60%
0.7	1,328	1,654	1,979	2,975	2,965	2,821	2,656	2,455	2,312	2,230	2,180	65%

将来の平均漁獲量(千トン)

$\beta$	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
1.0	437	565	549	688	605	574	544	502	473	455	443
0.9	437	565	499	636	567	543	518	480	452	435	424
0.8	437	565	448	581	525	508	489	454	428	412	401
0.7	437	565	396	523	479	468	454	424	400	385	375

漁獲管理規則に基づく将来予測において、 $\beta$ を0.7~1.0の範囲で変更した場合の平均親魚量と平均漁獲量の推移

2021年漁期の漁獲量は同年に予測される資源量と2018~2020年の平均漁獲圧により565千トンと仮定し、2022年漁期から漁獲管理規則に基づく漁獲を開始